

# Network 経済

2013  
Spring Vol.24

特集

## 読書のススメ

獨協大学経済学部  
獨協大学経済学会

特集

## 読書のススメ

### 03 「読書」の効用—知をクラウド化させないために

#### 特集 1 「読書のススメ」

- 04 秋本弘章 小林哲也
- 05 黒木 亮
- 06 塩田尚樹 本田浩邦
- 07 野村容康 香取 徹
- 08 堀江郁美
- 09 平井岳哉 御園生眞
- 10 中村泰將

#### 特集 2 「教員の視点」

- 12 「正直な人」は損をする？：経済評価における仮想バイアスへの挑戦  
大床太郎
- 13 デフレ経済の何が問題なの？  
須藤時仁
- 14 消費増税で得をする？：大局的観点からの評価  
高畑純一郎
- 15 経済現象の統計的分析と統計調査法  
樋田 勉

#### 特集 3 「窓口紹介」

- 17 教務課経済学部系の窓口から。  
教務課
- 18 キャンパスマナーを守ろう！  
学生課
- 19 世界に羽ばたく第一歩は、国際交流センターから  
国際交流センター
- 20 図書館の窓口サービス紹介  
図書館
- 21 キャリアセンターの窓口から  
キャリアセンター
- 22 ゼミ活動報告 岡部ゼミ
- 23 2012年度経済学部総合講座
- 24 経済学部教員の2012年度の研究業績

# 「読書」の効用 —知をクラウド化させないために

経済学部新入生の皆さん入学おめでとございます。新入生の皆さんは大学生活への期待で胸を膨らませていることと思います。在学生の皆さんも新たな学年の始まりを迎えて、新たな目標を立て頑張ろうと意気込んでいるかもしれません。明確な目標を持ち、その実現を目指して着実な努力を重ねれば皆さんの大学生活は充実したものとなるでしょう。

一方で、大学生活の中で目標を見失ってしまう学生も少なからずいることは事実として認めなければなりません。経済学部の場合は、必ずしも将来の見通しがはっきりとはしていないということが影響しているのかもしれません。医学部であれば明確に医師になるという目標がいわば与えられているともいえるわけですが、経済学部にはそのようなものはありません。経済学部では、勉学へのモチベーションを低下させないためには初年度教育が重要であるとの認識から数年前から1年生に「クラスセミナー」等の授業を行うことにより対応をしてきました。もちろんそれだけで目標を見失ってしまう学生をゼロにすることは難しいことは認識しています。

私は、目標を見失いそうな学生には、とりあえず大学での勉強を懸命にしてみようことを勧めます。「学ぶ」ということには、自分の興味が少ない分野にもそれなりの喜びがあるからです。そしてさらに勧めることは「読書」です。「読書」の効用は本誌の他の個所でもその他の場所でも説かれているとは思いますが、それは確実にその人の知識を増やし人生を豊かにするのですが、その習慣がない場合には苦痛と感ずる場合が多いかもしれません。そのような際に大学生のような自由になる時間が多い人に対して、私は1か月何冊、年間何冊といったように読書量の目標を最初に決め、これを実行することを勧めます。読んだ本の名と著者は、手帳やパソコン・スマホに記録して、番号を付けておくとよいでしょう。感想などあれば付け加えておくのもよいかもしれません。

月5冊読めば年間60冊、月10冊であれば年間120冊です。私の友人には年間200冊の読書を50年間続け、人生において1万冊の書（万巻の書）を読むことを目標にしていた人がいました。吉田松陰は「万巻の書を読むにあらざるよりは、いづくんぞ千秋の人たるをえん。」と教えたと言われています。これは「読書」すなわち勉学をしなければ立派な人にはなれないという意味ですが、獨協大学初代学長の天野貞佑先生の「大学は学問を通じての人間形成の場である」という言葉にも通じるような気がします。

「読書」により知識を増やすことは大切なことです。ICTテクノロジーの発達等により「調べればわかることは覚える必要はない。」との風潮が近年はあるようにも思えます。しかし「頭をからっぽにする」ことは退化以外の何物でもありません。「知」はクラウド化させてはいけません。しかしながら「読書」はそれを許しません。大学生活において「知的になる」ためには「読書」は必要不可欠なツールなのです。



経済学部長 齊藤美彦



## 『経済学部生?にお勧めの本』

経営学科教授 秋本 弘章

- ピエトラ・リポリ(著) 兩宮寛・今井章子(訳)(2007)『あなたのTシャツはどこから来たのか?』東洋経済新報社
- ジャレット・ダイヤモンド(著) 倉骨彰(訳)(2012)『銃・鉄・病原菌』(上下) 草思社文庫
- 千葉徳爾(著)(1973)『はげ山の文化』学生社

初めに断っておきますが、私の専門は経済学でも経営学でもありません。したがって「経済学部生に」ふさわしいかどうかはよくわかりません。しかし、多くの学生は卒業後就職するわけですが、一般に日本の企業は、経済学や経営学の専門性を重視して選考しているわけではありません。むしろ、一般教養がどのくらい身につけているかが大切であるといわれています。ですから、学生時代には分野に関わらず様々な本を読んでほしいと思っています。

ここにあげた3冊は、ずいぶん異なった分野の本だと思われるかもしれませんが、共通していることがあります。それはいずれも「フィールドワーク」に基づいているということです。ダイヤモンド氏は生物学者、千葉氏は民俗学者としても有名ですが、二人とも地理学者でもあります。だから「フィールドワーク」は当然と言えば当然です。

ピエトラ・リポリ氏の『あなたのTシャツはどこから来たのか』は、

経済学の書籍の中ではかなり特殊なものではないかと思います。経済学で主流のモデルや統計を駆使するわけではありません。1着のTシャツを追っていくという、地道で丹念な方法をとっています。具体的には、テキサス州の綿農園、中国の工場などを丹念に取材しています。そのことによって、グローバリゼーションの実態を明らかにするという点に成功しています。グローバリゼーションに関して自由貿易と市場原理の有効性が盛んに喧伝されていますが、綿花の生産にしても、Tシャツの製造についても純粋に自由貿易や市場原理が働いているのではないことを実証しています。「フィールドワーク」に基づいた彼女の分析は説得力があります。そして、彼女はTシャツが「古着」になってはじめて「本物の市場原理」が働いていると皮肉をこめて語っています。

大学での学問は大学内だけで完結しません。旅に出て、現実の世界を見てみよう。

## 『新しい産業革命の息吹き』

経営学科教授 小林 哲也

- クリス・アンダーソン『MAKERS [メイカーズ] 21世紀の産業革命が始まる』NHK出版 2012年
- 中西準子(聞き手:河野博子)『リスクと向き合う 福島原発事故以後』中央公論新社 2012年
- 入山章栄『世界の経営学者はいま何を考えているのか 知られざるビジネスの知のフロンティア』英治出版 2012年

3Dプリンタというものをご存じだろうか。普通のプリンタは紙の上に二次元でインクを吹き付けて文書や写真を印刷する。3Dプリンタは固体の「インク」を吹き付けて3次元にモノを造形していく。そのときの「インク」はプラスチック系の粉体状のもので、紫外線などで硬化させながら立体的な造形が可能になる。簡単に言うと、おもちゃのフィギュアやキーホルダーを、卓上のプリンタで「印刷」できるのだ。かつて個人の卓上で精緻な印刷ができることを、デスクトップ・パブリッシングといったが、今やデスクトップ・ファクトリーがPCと3Dプリンタで個人でも実現できるようになった。と言っても、多くの人は、それが産業革命に匹敵するような出来事とは実感できないだろう。

著者のクリス・アンダーソンは、アトムとビットという概念を使ってこの「産業革命」の意義を説明していく。著者の祖父は、スイスからロサンゼルスに移民した機械職人だった。精密な動作をするスプリングなどのアイデアを、自宅ガレージの旋盤を駆使してバルブやギアの形にして削りだしてゆく。その体験を共有していた著者

は、しかしやがてその世界(アトム)から離れていく。コンピュータ、すなわちビットの世界に魅了されたのだ。ビットの世界は驚異的な勢いで広がり、インターネットを介して世界中の人々・ビジネス・モノがつながっているのは、ごらんの通りだ。あらゆるアイデア、音楽、映像、設計図などなどはウェブを通してビットの世界で共有可能だ。しかもそれらビットの世界を実際のハードウェアとして実現してくれる「工場」は、グローバルなサプライチェーンとして、個人でも利用可能だ。ビットをアトムに変換する仕組みが、インターネット上の様々な「フリー」(前著タイトル)な資源を使って、すでに豊富に提供されているのである。本書はその様子を生き生きと伝えてくれている。折しも中国での賃金高騰などから、モノ作りの製造拠点をどこに置くかという議論が沸騰している。ロボットが産業を先進国に取り戻してくれるわけではないが、新しい起業の可能性が広がっているのは間違いのない。



## 『“経済学”学のおすすめ?』

経済学科准教授 黒木 亮

- ハイルブローナー『世俗の思想家たち』(筑摩書房)
- マルクス/エンゲルス『共産党宣言』(岩波書店)
- 川端裕人『リスクテイカー』(文藝春秋社)

経済を学ぶのは難しいものです。理由の一つは、経済の仕組みを理解するという目的と、その道具である経済学を身に着けるといった手段が異質でありながら、分ち難く結びついているからです。私は最初そこで躓き、当時(学部2年生の頃くらいに)同級生から聞き知った杉本栄一『近代経済学の解明』(岩波書店)を読んで、経済学史という一歩引いた視点を知り、混乱から抜け出すキッカケをつかみました。そこでここでは、そうした一歩になりうる本、今日の経済や経済学の世界を遠巻きに眺めて帰還するための入り口として、経済学史、経済学の古典、経済小説の領域から、数冊ずつ紹介してみたいと思います。

経済学史では、根井雅弘京都大学教授の著作がお薦めですが、入門書としてはハイルブローナー『世俗の思想家たち』(筑摩書房)が定番です。これは様々な経済理論を生み出した思想家たちの興味深いキャラクターだけでなく、経済史の知識や経済学の意義についての洞察も深められる、大変面白い本です。その他、学史というよりは現在進行形に近いのですが、ニュー・ケインジアン<sup>など</sup>の思考法やマルクス主義の問題点などを整理し、近年の日本の政策論議を斜めから分析したものとして、稲葉振一郎『経済学という教養』(筑摩書房)があります。

経済学の古典からは、マニフェストの本家ともいえる、マルクスとエンゲルスの『共産党宣言』(岩波書店)を挙げておきます。この世界的な小冊子は、学史の講義で紹介する参考文献の中では最も薄いものなのですが、億を超える人々に夢を抱かせ、悲劇へと巻き込んでいった歴史的な文書・かつての禁書として、一度は目を通しておくべき大変重い本でもあります。私は学生時代(90年代半ば以降)に、教養のためと恐る恐る読んだせいも、やや拍子抜けとの不遜な感想も一部(確か政策提言の所)で抱いた記憶がありますが、「我々は99%の側の人間だ!」と叫ぶ「ウォール街を占拠せよ」運動を知っている今日の学生の目に、「諸君の社会では私有財産は社会成員の十分の九にとっては廃止されているのだ」との主張がどう映るのか、大変興味深い所です。その他、フリードマン夫妻の『選択の自由』(日本経済新聞社)やヴェブレンの『有閑階級の理論』(筑摩書房)等々、分厚い古典にも少しずつ挑戦してみてください。

経済小説では、私と同名同名(とはいえこちらはペンネームで、くろきと濁らないといった違いはあります)の元金融マンによる作品もお勧めですが、ここでは川端裕人『リスクテイカー』(文藝春秋社)を紹介します。これは虚業とも擲揄<sup>や</sup>されるヘッジファンドの世界に飛び込み、ウォール街に挑んでゆく若者たちを描いた物語で

すが、実際の通貨危機の背景やカオス理論を応用した投機戦略の本質なども垣間見ることのできる、青春娯楽小説以上の読み物になっています。「事実が小説よりも奇なり」の真意ないし裏側、虚構の中の真実をかつて私に気づかせてくれたのは(経済理論ではなく)ドストエフスキーの小説でしたし、虚構や言葉のもつ魔力や救済力も侮れません。何をしたいか分からない時には、小説に限らず、名前だけはなぜか憶えている有名な古典、科学の啓蒙書やカントの哲学書などにも手を伸ばしてみるとよいでしょう。なぜ訳がわからないのか、本当の所の分からなさ<sup>など</sup>に気づき、かえって気が楽になって地に足がつく、何てこともあるかもしれません。

以上、経済の勉強に迷った時の迂回路への入り口を三方向から紹介しましたが、これは今日の経済学の王道からは時に大きく左右に逸脱した軌道を迎えるものです。ですが、それさえ自覚していれば、世の流れや方向感覚・自身の立ち位置を見失う恐れも、経済の現実を無視した戯事にかまけているのでは?といった不安に陥ることもなくなるでしょう。実学重視の世間ではほとんど何の役にも立たず、経済理論を学ぶ上でもかなり非効率的=非経済的で、時代からも周回遅れのこの「急がば回れ」のススメが、一つの道標として少しでも役に立てば幸いです。





## 『大学生にぜひ読んでもらいたい本』

経済学科教授 塩田 尚樹

- 茂木 のり子 (2005) 『自分の感受性くらい』 花神社
- マイケル・マドセン (著) 西尾 漢/澤井 正子 (解説) (2011) 『100,000 年後の安全』 かんき出版
- NHK「東海村臨界事故」取材班 (2006) 『朽ちていった命—被曝治療 83 日間の記録—』 新潮文庫

『朽ちていった命—被曝治療83日間の記録—』は、1999年9月に茨城県の核燃料加工施設で起きた事故で放射線被曝した作業員大内氏 (当時35才) と、その家族および医療スタッフの「闘い」の記録です。2011年3月の東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所の事故により、原発の問題点が再認識されましたが、原子力エネルギー利用と不可分である放射線のおそろしさは、「実効線量が何々シーベルト(Sv)で、がん罹患率の増加が云々」などといわれても中々実感できないのではないのでしょうか。この本をみなさんに紹介する私の想いは、執筆者の岩本氏があとがきに記している「放射線被曝が人体に何をもたらすか、…きちんと知っておかなければならないのではないだろうか?」という言葉に尽きます。

本書では、わずか1000分の1グラムのウランの核分裂による放射線を浴びた大内氏が、おそらく当時考えられる最高の被曝治療チームの前向きで献身的な努力と家族の決してあきらめない強い気持ちにもかかわらず、「朽ちていく」ように亡くなるまでの3ヶ月間

がやや控えめの調子でえがかれています。被曝2日目は水ぶくれさえなく、5日目ぐらいまでふつうに会話し医療チームから「明るい大内さん」と呼ばれていた大内氏でしたが、被曝で細胞の設計図であるDNAが決定的なダメージを受け、新しい細胞が作られなくなっていました。そのため、皮膚が次第にはがれ落ち血液が浸み出し、50日目頃には「見ただけでは、これが大内さんだとは絶対わからない」「ここにいる人は何(「誰」ではない)なのだろう」「言葉で語るには軽すぎるとしか言いようがない姿」と表現されるようになり、83日目に「からだの前面の皮膚がすべてなくなって真っ赤になっている」状態で亡くなりました。

私にはこの痛ましい事故が、まだ技術的にうまく扱えない原子力を物質的豊かさ追求のためにだまされ使い、使用済み核燃料という「負の遺産」を将来世代に押しつけている、現代社会の歪みの象徴のように感じられます。

## 『デイビッド・モントゴメリー「土の文明史」』

経済学科教授 本田 浩邦

- リチャード・パーカー『ガルブレイス—闘う経済学者』上・中・下、井上廣美訳、日経 BP 社、2005 年
- カズオ・イシグロ『日の名残り』土屋政雄訳、ハヤカワ文庫、2001 年
- デイビッド・モントゴメリー『土の文明史』片岡夏実訳、築地書館、2010 年

世界の文明史をたどると、個々の文明の持続性は耕作による土壌浸食によって制約されてきたことがわかって地質学者である著者はいう。耕作と人口集中による土壌浸食のスピードが土壌形成のそれを超えると文明は衰退するのだ。本書は、その視点からメソポタミア、ローマ、ペルーの文明、アメリカの西部開拓から現在までの壮大な歴史を解き明かし、工業化された農業、商品化された土のもつ問題に警鐘を鳴らしている。

現在の世界的飢餓の理由の一つが工業化された農業にあることはよく知られている。農地を付加価値の高い換金作物のプランテーションへと変えたことが農民の自給手段を奪い、彼らを都市においやり、都市の貧困が経済を破壊する。他方、生産の中心である中国やアメリカの収奪農業と農薬依存がこのまま進めば地球の表土流出は加速する。本書のユニークさは、そうした問題をルポルタージュ風の告発ではなく、土壌に関する歴史上の奇想天外な事実によって浮き彫りにしている点にある。北アフリカが穀倉地帯で

あったこと、ペルー沖にあるまるごと鳥の糞でできた島の争奪戦、アメリカの奴隷制度とプランテーションの土壌疲弊の結びつきなど興味尽きない話題に満ちている。

農業を持続可能な方向へと転換する方法もあるという。混作、不耕起農法、生物学的害虫防除などによる農業などが土壌浸食と作物の損害が少なく、多くの人口をまかなうことができることが様々な事例で示されている。「農業を単なるビジネスの一種としてみることはできない。土壌保全の利益は数十年間利を続けてやっと実を結ぶものであり、また土壌の誤用のコストは万人が負担するものだからだ」と著者は指摘する。

経済学部の学生の関心を引きにくい本のタイトルであるかもしれないが、アジアの伝統的農業が再評価されるべきであるといった本書の主張は、現在の経済政策を考えるうえ直接参考になるだろう。ぜひ読んで頂きたい。



## 『先人に学ぶ「学ぶこと」の意味』

経済学科教授 野村 容康

- 橋本左内『啓発録』（講談社学術文庫）
- 吉田松陰『留魂録』（講談社学術文庫）
- 司馬遼太郎『十六の話』（中公文庫）

橋本左内という人を知っているだろうか。歴史好きには愚問だったかもしれない。安政の大獄で26年という短い生涯を駆け抜けた幕末の志士である。福井藩の医者の子として生まれ、医学や洋学を修得するため、少年の頃からたびたび諸国に遊学に出ている。最初は父の後を継いで医者になるつもりでいたようだが、藩主松平春嶽にその才能を見出されたことで、一転、日本史の表舞台に登場するようになる。

左内は西郷隆盛の無二の親友としても知られる。西郷は左内が説く国家の進むべき道聞き、これに驚嘆・感銘したばかりか、その温和で誠実な人柄に心を打たれる。西郷は、常々「才器、学問、識見において自分が到底まねることができないのは、先輩では水戸藩の藤田東湖、同輩では橋本左内である」と人々に語ったといわれている。また、当時の幕府の重役であった川路聖謨も、自分の息子と同じくらいの年齢の左内に心服し、上司である井伊大老の方針に反しても、次期将軍として一橋慶喜を支持するようになる。

このような逸話からも、左内が傑出した人物であったことは想像に難くない。しかし、幼い頃の彼は、決して自信もなく、何事にも疎略で、いくら勉強しても上達しないのが情けなくて毎晩寝床で涙を流していたという。そこで、わが身を深く恥じた左内が14歳のときに

自らを奮い立たせるために書き上げたのがこの『啓発録』である。

その内容は、①去稚心（子供じみた甘えた気持ちを捨てること）、②振気（恥辱を知って人に負けない心を強く持つこと）、③立志（目標を立てて地道に努力すること）、④勉学（優れた人物の立派な行いを手本として実行すること）、⑤択交友（自らを向上させる友人を択ぶこと）、という五項目の規範に分かれる。こうした自分への強い決意表明こそ、後に彼をして非常に先覚者へと変身させる原動力となったのである。

14歳にしてこれほどの文章が書ける（そもそも他人に向けて書いたわけでもないのに!）というのは全く信じられないが、その熱い思いに溢れた、まっすぐな言葉は、悩み多き現代の私たちをとて勇気づけてくれる。弱い自分でも努力すれば、必ず人生の大きな目標を達成できるような、そういう胸が踊る気持ちにさせてくれる。特に社会に出る前の私たちが是非とも読んでおきたい一冊である。

（左内と会談することを切に願いながらも叶わず、左内より20日遅れて同じ伝馬町で処刑された吉田松陰による『留魂録』（講談社学術文庫）、左内が適塾に学んだ時の師である緒方洪庵について書かれた「洪庵のたいまつ」などが取められた司馬遼太郎の『十六の話』（中公文庫）もお薦め

## 『読書を楽しもうー経済学部生にお勧めの本』

経営学科教授 香取 徹

- 岩井克人著『会社はだれのものか』平凡社 2005年
- 中谷巖『資本主義以後の世界』徳間書店 2012年
- ジャレド・ダイヤモンド著 倉骨彰訳『銃・病原菌・鉄』上下 草思社 2000年

2008年のリーマンショック、2011年の東日本大震災、この二大事件が今の経済、社会に与えた影響はとてつもなく大きなものでした。これまでの発展を支えてきたグローバル経済や金融資本主義を見直すきっかけとなったと言えるでしょう。格差社会、財政破綻、ユーロ危機、原発事故、環境問題など一斉に噴き出しました。世界が大きく変わる序曲なのかもしれません。岩井『会社はだれのものか』は、競争社会の中で会社というモノを考えなおそう、説いています。お金よりも人間を、個人よりもチームを大切にすることがポスト産業資本主義の方向だということです。中谷『資本主義以後の世界』もグローバル資本主義を糾弾して、日本にできる文明の転換を提案します。この他、島田晴雄『盛衰』、佐伯啓思『成長経済の終焉』、少し

難しいかもしれませんが、水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』や『終わりなき危機』はじっくり考えさせられます。音色が少し違いますが、ジャスティン・フォックス『合理的市場という神話』などお勧めです。一方、なんで人類がこんな社会や経済を作ってしまったのか、を考えるきっかけになるかもしれないのが人類史です。ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』は、合理的に格差を説明できないことを踏まえたうえで一つの試みを示しています。また、マルコ・イアコポーニ『ミラーニューロンの発見』は、人類になることの不思議を教えてください。



## 『自分の足でススメ!』

経営学科准教授 堀江 郁美

- 牟田淳、アートのための数学、オーム社、2008
- 酒井聡樹、これから論文を書く若者のために、共立出版、2006
- ウォルター・アイザックソン著、井口 耕二翻訳、Steve Jobs I, II, 講談社、2011

私は自他ともに認めるマカーであり、スティーブ・ジョブズの熱狂的なファンである。ただの便利なマシンでしかなかったマックのイメージをがらりと変えたのはジョブズが2005年に行ったスタンフォード大学卒業式でのスピーチ<sup>\*1</sup>だった。そこでジョブズは3つの事を述べている。1番目は点を繋いでいくことについて(connecting the dots)、2番目は愛と失うことについて(love and loss)、3番目は死について(death)である。この本は、ある1人の大変魅力的な天才スティーブ・ジョブズの人生の公式記録である。是非、スタンフォード大でのスピーチを念頭に置いて読んで欲しい。

まず、点を繋いでいく話は、人生の事象を振り返りながら自分で繋いでいこうという話である。ジョブズが養子になった経緯、養父母のこと、リード大学を退学しカリグラフィーを聴講したことなど、全てが偶然のようで今振り返ると美しく繋がる。人生に無駄なことなど何一つなく、意味がないと思われる一つ一つの出来事を意味あるものに変え、繋げるのが私たちの重要な役目であることを気付かせてくれる。次に、愛と失うことについては、ジョブズが自分で作った会社を追放され復職するまでの話である。2,000色のアイボリーの中にジョブズの満足いくアイボリー色がなかったエピソードからも、仕事への並々ならぬ愛情が感じられる。自分の会社を追放された時でさえも、好きなことを自分がしてきたという自信、そして、これからも続けていくという信念が自分を救ってくれると教えてくれる。最後に、死についてである。ジョブズは、2004年に癌が見つかり、2011年10月5日56歳で早過ぎる死を迎える。死を意識すると素の自分が見えてくる。見栄や欲を捨ててはじめて、本当に自分がなりたい姿に気付くことを思い出させてくれる。

この本は、幼少時にした養父のお手伝いが製品開発に生きていたり、家電製品からマックの色を発想したりと、マックユーザの長年の疑問に答えてくれる。また、マッキントッシュなど歴代のマシンやiPhone、iPadなど皆の身近な製品<sup>\*2</sup>がどうやって産まれてきたのか、コンピュータの歴史を知ることできる。そして、また一人の天才がどうやって知識の引き出しを増やし、人生の点を繋いだのか、人生の作り方を教えてくれる。どうか、人それぞれの楽しみ方をして欲しい。

大学の4年間は社会にでる前の最後の練習期間である。大学では今まで以上に濃く深く一つのことを専念もできるし、広く浅く多くの事も吸収できる。学食でする無駄話も宴会も授業も、何一つ無駄なことなんてない。是非様々なことを経験し、知識や教養の引き出しを増やして欲しい。人生で本当に重要な時に必要なのは、知識

と教養に裏付けされた直感である。今後、お風呂場で一人声を殺して泣くことしかできないこともあるだろう。自分の無力さに絶望することだってあるだろう。そういう時にこそ思い出して欲しい。「あなたは今まで何をしてきたのか。今後それらをどう繋ぎどう進むのか。それが本当に自分のなりたい姿なのか。

Stay hungry, stay foolish.

※1 「スティーブジョブズ スピーチ」で検索してみしてほしい。

※2 画像検索を用い、マックの歴代製品を見てみるのも楽しめるであろう。





## 『私のおすすめの本』

経営学科教授 平井 岳哉

- 竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』講談社学術文庫 2011年
- 宮崎市定『科举』中公新書 1963年初版
- 菊地浩之『日本の15大財閥』平凡社新書 2009年

行き帰りの通学途中でも読めるように、文庫・新書で3冊を選んできました。いずれもそれほど長くないことと、面白いので一気に読めると思います。

『学歴貴族』は、第2次大戦以前の旧制高校時代の話ですが、当時の大学生が強烈な誇り・プライドをもって天下国家を論じ、同時に教養・知識に対する飢餓感にも似た旺盛な探求心を持っていたことがわかります。著者の竹内氏は、これ以外にも、教養主義に関する同様な著書が多数あります。

『科举』は、同じ中公新書の『宦官』（三田村泰助、1963年初版）と並んで同新書の古典的名作です。この本は、過去、時間をあけて何度も読んでいますが、面白いこと請け合いです。今でも古本屋の100円コーナーに時々並んでいる時があります。昔の中国における国家試験合格のための苦労とスケールアップしたカンニング

の様子がわかります。

『15大財閥』は、経営史関係の本です。三井、三菱、住友などの旧財閥系企業の明治から現在までの変遷が、系統図などを駆使してコンパクトにまとめられています。大企業の場合でも名前は知っていても、その企業の起源・ルーツは案外知らないことが多いと思います。旧財閥系企業では、長い年月の間に合併や枝分かれ(独立、分割)を繰り返しており、企業間の意外な関係がわかるのではないかと思います。企業に関する雑学的知識かもしれませんが、読書を通じて覚えておくと、授業の時や就職活動の際にきっと役立つものと思います。著者の菊地氏は、同じ平凡社新書シリーズで、『日本の15大同族企業』（2010年）、『日本の地方財閥30家』（2012年）も書いています。こちらもあわせてご一読をお薦めします。

## 『推薦図書』

経済学科准教授 御園生 眞

- アダム・スミス『国富論』（中公文庫、全3冊）
- 井上義朗『二つの競争：競争観をめぐる現代経済思想』（講談社現代新書 2174、2012年）
- 島崎藤村『夜明け前』（岩波文庫、新潮文庫）

### 1. アダム・スミス『国富論』（中公文庫、全3冊）

著名な古典は、正直なところ読みにくい。最初から読み始めると、直ぐに挫折するのが普通だ。むしろ、面白そうなところを探しながら、あちこち拾い読みすることを薦めたい。

例えば、『国富論』第5編第1章第3節の第2項「青少年教育のための施設の経費について」でスミスは、自身の体験を基に当時のオックスフォード大学の教師を痛烈に批判している。また、同じ第5編第2章第2節「租税について」では、公平・明確・納税の便宜・徴収費の節約という「租税の4原則」について、明解に論じている。18世紀イングランドの大学教育への批判は、現代日本の大学教育にも当てはまるし、スミスの言う租税の4原則は、現在も不変の原則である。まさに、優れた古典が持つ射程の長さを堪能できる。

中公文庫版は注が詳しく図版も多い。第3分冊巻末の索引と「小見出し一覧」を利用すれば、いろいろ拾い読みすることが可能だ。ぜひ、面白そうなところ、興味を持ってそうなところを見つけ、そこから『国富論』の世界に分け入って欲しい。

### 2. 井上義朗『二つの競争：競争観をめぐる現代経済思想』（講談社現代新書2174、2012年）

毎日のように「競争」という言葉を目にし耳にする。しかし、そもそも我々は「競争」の概念を正しく理解しているだろうか？ 著者は、「競争」に2つの概念があることを、古代ギリシャの哲学にまで遡って考察する。特に、アダム・スミスの社会経済思想にある、コンペティションとエミュレーションの2つの競争概念に注目して論じている。重要な事柄を、あたかも自明のこととして論じる傾向に反省を促す好著である。

### 3. 島崎藤村『夜明け前』（岩波文庫、新潮文庫）

長編小説を大学時代に読んでおくことは、大きな財産になる。藤村は黒船来航から明治維新までの歴史とそこに生きた日本人を、信州の馬込宿に視点を置いて描いた。この長編小説には、現代日本の閉塞状態を考える際のヒントが豊富に含まれている。



## 『一読をすすめる本』

経営学科教授 中村 泰將

- 榊原英資著『日本は没落する』朝日新聞 2007年
- 森政弘著『「非まじめ」のすすめ』講談社文庫 1984年
- 森政弘著『「非まじめ」をきわめる—隠された「智慧」の威力—』講談社+α文庫 1995年
- ハワード・シュルツ+ジョアンヌ・ゴードン著『スター・バックス 再生物語—つながりを育む経営—』（月沢李歌子訳）徳間書店 2011年

書評：ハワード・シュルツ+ジョアンヌ・ゴードン著  
『スター・バックス 再生物語』

この著書は、一度どん底に落ちた企業の再生物語である。この著書の主人公は、スター・バックスであり、CEOのハワード・シュルツである。スター・バックスは、ハーマン・メルヴィルの『白鯨』の中に出てくる一等航海士の名前にちなんで付けられた名称であり、『白鯨』がアメリカで親しまれ、神秘的な響きを持っていたからである。スター・バックスも『白鯨』と同じくアメリカはもちろん、世界で最も好まれるコーヒー店にしたかったのであろう。この著書を取り上げたのは、再生の戦略もさることながら、発想の転換である。

今でこそ、スター・バックスは、売り上げ117億ドル、世界55か国に17,000店舗もあるグローバル企業に成長したが、2007年の金融危機とともに世界的な不況に見舞われ、2008年には、売上高もこれまでになかった水準までに落ち込んだ。同年3月、ハワード・シュルツは会長に退いていたがCEOに再び復帰した。そこでの発想は何であったか。

アメリカでコーヒーといえば定番の「アメリカン」という答えが返ってくる。ハワード・シュルツは、自ら本場のイタリアに出向き、イタリアのコーヒー文化を学び、その味を楽しみ、直接バリスタからその技法を学んだ。完璧なエスプレッソを作り上げるため13万5千人のバリスタの再教育を実施した。そして、イタリア風のコーヒー文化に転換したのである。コーヒー店はコーヒーを飲む場所からコミュニティの場に変える発想であった。アメリカ（人）に一流のコーヒーの味とエスプレッソのロマンを提供し、人々の生活を豊かにする。客がお店に入ったときに、素晴らしい体験ができるようにする。スター・バックスの哲学は、豆の一粒一粒から最大限の可能性を引き出し、最高の風味を出せるようにじっくりと焙煎工程をしっかりと管理していく。スター・バックスは、新しい発想によって利益と社会的良心を両立させ、お客のコミュニティを担う会社を築くことに成功した。



---

## 特集2 教員の視点

---



「正直な人」は損をする? : 経済評価における仮想バイアスへの挑戦

..... 国際環境経済学科専任講師 大床 太郎

デフレ経済の何が問題なの?

..... 経済学科教授 須藤 時仁

消費増税で得をする? : 大局的観点からの評価

..... 国際環境経済学科専任講師 高畑 純一郎

経済現象の統計的分析と統計調査法

..... 国際環境経済学科准教授 樋田 勉

## 「正直な人」は損をする? : 経済評価における仮想バイアスへの挑戦



国際環境経済学科専任講師 大床 太郎

### ◆環境対策の経済評価

私の専門は、環境政策の経済評価です。「環境政策の推進は重要である一方で、他に使えるかもしれないお金や時間を犠牲にする必要がある」という視点を持って研究を進めています。このような関係は「トレード・オフ」と呼ばれます。

経済政策についてトレード・オフ関係を分析するツールとして、費用対効果分析があります。政策によって得られる（プラスの）効果と、政策にかかる費用を算出して比較し、より費用効率的な政策を導き出す手法です。特に、お金の価値として効果を計算すること（便益計測といいます）ができれば、費用と比較しやすい指標として示すことができます。

では、環境政策の便益はどのようにお金の価値として計測するのでしょうか。例として、アンケートを利用する経済評価手法のひとつ、仮想評価法（Contingent Valuation Method: CVM）を用いて、大気汚染削減便益を計測する簡便な例を図1に示します。このようなアンケートの質問項目に対する回答結果を統計的に解析して、削減対策の便益を算出することができます。

### ◆CVMと仮想バイアス

しかし、CVMにはひとつ課題があります。あくまでも「仮想的な状況を想像したうえで」回答してもらうため、CVMに対する回答と、実際本当に寄付金を募るときとは、人々の行動が異なってくる可能性があります。仮想的な質問ではたくさん寄付すると回答した人が、実際に集めるときにはほとんど寄付しないかもしれません。

このような現象のことを「仮想バイアス」といいます。新商品のマーケティングなどにおいても、仮想的な状況を提示してアンケートに答えてもらうような場合には、この仮想バイアスがつきまとい、回答の信頼性が損なわれます。

### ◆仮想バイアスへの挑戦

現在、経済評価分野において、どのように仮想バイアスを減らすことができるのかに関する研究が進んでいます。その候補のひとつに、「チープ・トーク（Cheap Talk Script）」というものがあります。その一例が図2ですが、このようなチープ・トークの一文を質問票に記載するか否かで回答結果が異なることが確認

されています。

ところで図2をよくみると、研究者にとっては極めて「不都合な事実」を述べています。不都合な事実をあえて回答者の皆さんにご覧いただくことで、回答者の真の意見表明かどうかは別としても、回答結果が変わってくるという現象が生じているわけです。あえて「正直に」不都合な事実を提示することは、人々の本当の思いを汲み取るための良い戦略なのかもしれませんね。

### 【参考文献】

Scarpa R, Notaro S, Louviere J, Raffaelli R. (2011) Exploring Scale Effects of Best/Worst Rank Ordered Choice Data to Estimate Benefits of Tourism in Alpine Grazing Commons, Amer. J. Agr. Econ. 93(3): 809-824.

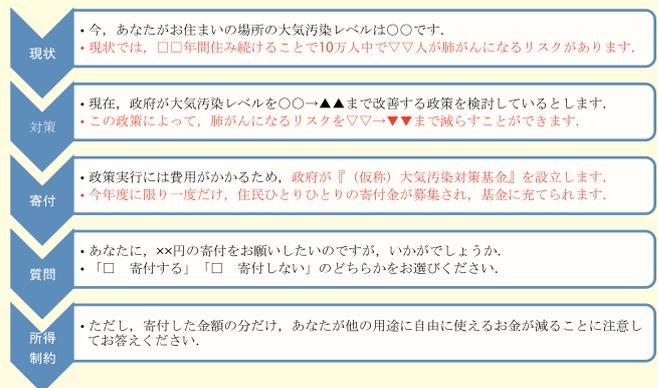
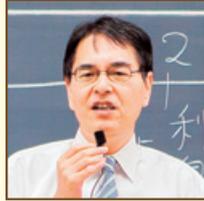


図1: 仮想評価法の一例

図1で提示したような質問についてご留意いただきたいことがあります。仮想的な状況と支払いの質問は今までの研究でも多く用いられてきましたが、回答者の皆様は、ときどき仮想的な質問に対して熟慮せずに回答されます。質問が仮想的な支払いであり、義務ではないからかもしれません。熟慮なく回答された結果として、回答の信頼性が損なわれ、研究成果が役に立たないものになってしまいます。

図2: チープ・トークの一例 (Scarpa et al. 2011を参考に筆者が作成)

## デフレ経済の何が問題なの？



経済学科教授 須藤 時仁

### 「デフレ」とは？

今の日本ではデフレ経済の克服が課題となっています。「デフレ」とは何のことでしょうか？それは、正式には「デフレーション」と呼ばれ、物価（商品やサービスの価格）が持続的に低下する現象のことです。したがって、デフレとは特別な人にだけ起きていることではなく、皆さんの身の周りの出来事なのです。

ここで、皆さんにもなじみのある牛丼を例にとって値段の推移を見てみましょう（図）。吉野家の牛丼（並盛）の値段を調べてみると、1970年頃は200円でしたが90年には400円まで上がっています。しかし、それから20年以上経った今は380円と、ほぼ同じ値段です。これは牛丼だけの話ですが、もう少し範囲を広げて消費者物価指数の動きを見てみましょう。これは、全国の消費者世帯（皆さんのご家庭のことです）が購入する商品やサービスの価格を総合して表したものです。2010年の総合した価格を100としてその推移を見ると、1970年から1992年までは明確な上昇基調にありました。しかし、その後は上昇の速度が鈍化し、ついに1998年以降は低下基調に転じています。

### デフレ経済は悪いことなのか？

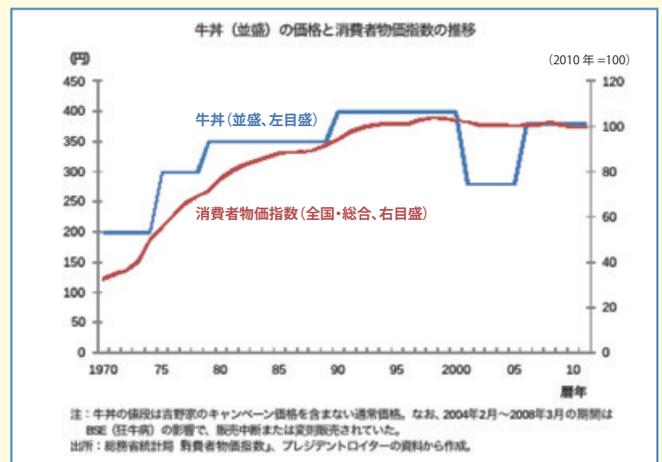
デフレ経済だと何が悪いのでしょうか？同じお金でより多くの商品やサービスを購入できるようになるのですから、皆さん方消費者にとってはむしろ良い事に思われます。しかし、商品・サービスを販売して利益を得ている企業にとってはどうでしょう。企業の利益は、商品・サービスの売上げから人件費、原材料費などの費用を差し引いたものです。ここで、売上げは商品・サービスの単価（価格）×販売数量で考えられますから、価格が低下すれば、販売数量を大きく増やさない限り、売上げは増加しません。

一方で、企業は利益を出さないとやがて倒産してしまうので、売上げが増加しないときには費用を削減せざるを得ず、従業員、給料等を減らすこともあります。そうなると、人々の収入（所得）が増えなくなり、当然、商品やサービスの購入に使うお金も節約されます。すると、商品やサービスが売れなくなるので、企業はそれらの価格を引き下げざるを得なくなる、という悪循環が生じるのです。こうした背景から、今の日本ではデフレ克服が最優先課題となっているのです。

### 経済学・経営学の役割とは？

どうしたらデフレが克服できるのでしょうか？これまでの話から、人々の雇用と給料等を確保することが重要であることがわかれると思います。そのためにどうしたらよいかを考える基礎を提供するのが経済学、経営学です。経済学の観点から、労働政策や金融緩和・公共事業といった需要創出政策が考えられます。また、経営学の観点からは効率的な経営のための組織作りやコーポレート・ガバナンスが重要となるでしょう。

最後の方は、専門的な話で難かったかもしれません。しかし、ここで大切なことは、経済現象とは皆さんの身の周りで起きている出来事なのですから、難しく考える必要はないということです。例えば、ここで取り上げた牛丼の価格のように日常生活の中から何か問題意識を持って経済を考えてみるのは大切なことです。そして、常に「なぜそうなのか」という意識を持つこと。経済学や経営学はその「なぜ」を解きほぐすための基本的な考え方を示しているのです。



## 消費増税で得をする? : 大局的観点からの評価



国際環境経済学科専任講師 高畑 純一郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんもニュースで見かけたことがあるかもしれませんが、2014年から段階的な消費税の増税が検討されています。実際に増税されると、買い物での税負担が増えることとなります。このコラムでは、消費増税が皆さんにとって持つ意義について、大学での学習に絡めて考えてみます。

まず、国民には納税の義務がありますが、税金は何に使われているのでしょうか。1つは、公共サービスの提供です。皆さんも受けてきた教育や医療などのサービス、また道路や公園の整備などは、自然には十分提供されないため、政府が提供する必要があります。これらは無料で提供されているわけではありません。

こうした公共サービスの提供には費用がかかります。その費用を賄うためには税金が必要ですが、別の手段として公債も考えられます。公債とは政府の借金の中で、税負担を後に先送りする手段です。では公債は望ましくないのでしょうか。借金なので一概に望ましくないということはいえません。例えば、橋を作るときには大きな費用がかかりますが、一度かけると数十年間にわたって便益を享受できます。その費用を税金で賄おうとすると、最初の世代は受ける便益に対して負担が大きくなりすぎてしまうので、この場合は政府が公債というローンを使って少しずつ返済すればよいのです。

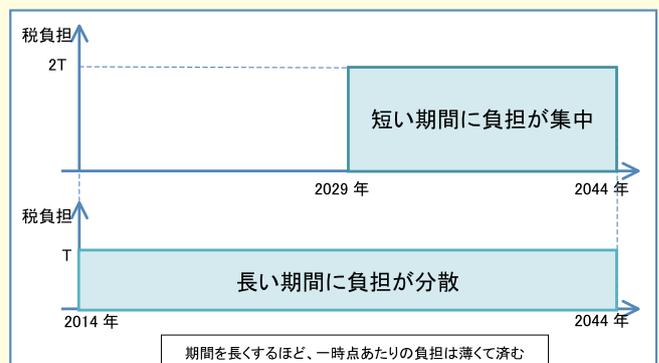
では、なぜ今増税する必要があるのでしょうか。2013年時点で、国と地方を合わせた政府の長期債務残高が1,000兆円ほどありますが、これは政府が公共サービスという便益を税金という正当な対価を課さずに、公債発行し続けることで提供してきた結果でもあります。このままの状態では、いずれ財政が破綻して経済が混乱してしまいます。そうした事態を避けるために累積した債務を返済する必要があり、景気回復に目途がついた段階で増税が実施され、皆さんの負担も増えることになりそうです。

消費税は原則として全ての財にかかる税なので負担を実感する機会が多く、皆さんは消費増税を避けたいと考えるかもしれませんが、当然、増税による負担の増加だけをみると避けたいですが、生涯を通した負担といった、より大局的な観点から考えると、皆さんのような若い世代にとって消費増税は歓迎できる改革である可能性があります。

例えば、ある期日までに消費増税で一定額を追加的に徴収す

るというケース(図参照)を想定すると、早期の消費増税は後に生まれた世代には有利になります。消費税を増税する時期は、先に生まれた世代ほど先送りによって負担を回避できますが、後に生まれた世代にとっては、早期の増税によって、先に生まれた世代にも返済してもらった方が負担は小さくなります。さらに所得税などと比較しても、消費税は消費活動を行う限り生涯を通じて負担があるため、先に生まれた世代から負担を求めることができます。

このように、生まれた時期によっても消費増税に対する考え方は違うはずですが。いま日本ではTPP、高齢者関連政策、移民、雇用慣行、生活保護など、多くの問題について国民の選択が迫られています。各々にとって政策や制度によって発生する便益や費用が異なりますので、税制に限らず、あらゆる政策や制度に対する意見を持つためには、それが自分にとっていいのかを評価できなければなりません。そのためには、自分で情報を集め、自分の頭で考えて、それが自分にとってどういう意味を持つかを知っておく必要があります。例えば、皆さんは20歳になると選挙権が与えられます。選挙では自分で判断して投票しなければなりませんので、ある政策について自分の文脈に即して判断する必要があります。大学は自分の考えを持てるように訓練することができる場でもありますので、大学での4年間を有意義に過ごしてください。



## 経済現象の統計的分析と統計調査法



国際環境経済学科准教授 樋田 勉

### 主な研究テーマ

私の研究テーマは、大きく分けて二つあり、一つは価格・物価と消費者行動の分析、もう一つは統計調査法の理論研究と実際の統計調査への応用です。

はじめに、第一の研究テーマ「価格・物価」について説明します。ブランド、量、質などが全く同じ製品が小売店舗によって異なる価格で販売されていることがあります。例えば、ある会社のカップヌードルが、コンビニでは150円、スーパーでは100円で売られていたり、郊外のスーパーでは90円、駅前のスーパーでは110円で売られていたりします。このように、物理的にはまったく同じ製品の価格が店舗間でばらついている（分散が0でない）現象を価格分散といいます。

経済学では価格分散が発生する主な要因として、製品の差別化と探索費用（サーチコスト）に注目します。製品の差別化とは、物理的には同じ製品であっても、その製品を販売する店舗によって付加されるサービスの質が違えば異なる財として消費者に認識されることを意味します。丁寧な接客、買い物がしやすい立地や利便性、清潔で快適な設備などのサービスが製品に付加されていると考え、コンビニや百貨店ではスーパーや量販専門店よりも同じ製品が高値で売られていることの説明ができます。

一方、消費者がある製品を購入したいとき、一般にその製品を販売しているすべての店舗の価格を知っていることはなく、各店舗の販売価格を知るためには価格の探索を行う必要があります。探索にはさまざまなコストがかかります。例えば、新聞広告や価格比較サイトで価格を調べたり、店舗に出かけて回ったりするための時間や交通費、ガソリン代などがあげられます。このような費用を探索費用と呼びます。探索費用が存在すると、実質的に消費者は一部の店舗の価格だけしか知ることができません。その結果、ある製品を他の店舗よりも高値で売っている店舗でも売り上げを出すことができるようになります。

消費者に注目すると、目的の製品をできるだけ安く購入するために探索に時間をかける消費者がいる一方で、ほとんど探索を行わずに、偶然入った店舗やいつも利用している店舗で目的の製品を購入する消費者がいるかもしれません。消費者の性別、年齢、所得、就業時間や通勤時間等が異なれば、探索費用や時間の使い方を含む購買行動が異なる可能性があります。経済や

マーケティング分野では価格分散や消費者の購買行動について様々な理論研究や統計データを利用した実証研究が行われています。

次に、第二のテーマ「統計調査」について説明します。人口や企業の数、高齢者比率や失業率などを知るためには統計調査が必要です。日本をはじめとする多くの先進国では、統計調査を実施し、人口や失業率などの統計を作成・公表しています。

現在日本では、調査への協力拒否や調査員訪問時の不在などが増え、統計調査を行っていく状況になってきていますが、その一方で、政府や企業が意思決定を行う際に統計データを利用する場面は増えていて、正確な統計のニーズは高まっています。

調査には調査員の人件費や交通費、調査票の印刷、集計時間などいろいろな費用がかかります。したがって、できるだけ少ない費用で、できるだけ正確な統計を作成することが望まれます。標本調査法とはこのようなテーマを研究する分野です。

近年、政府や企業など様々な組織が大量のデータ（ビッグデータ）を蓄積し、その利用に関心が向けられています。統計データの利用には統計学の知識が不可欠です。多くの学生が統計学やデータ分析に関心を持ち、統計データを活用できるようになることを期待しています。

## 特集3 窓口紹介

教務課経済学部係の窓口から。

..... 教務課



キャンパスマナーを守ろう！

..... 学生課



世界に羽ばたく第一歩は、  
国際交流センターから

..... 国際交流センター



図書館の窓口サービス紹介

..... 図書館

キャリアセンターの窓口から。

..... キャリアセンター



# 教務課経済学部系の窓口から。

教務課経済学部係長 指物 敏一

私ごとになるのですが、今年は、「英語ができるようになる」という目標を立てました。—実はこの原稿を書いているのが1月なので、今年目標という書き出しになってしまったのですが。—

その目標を立てるに至ったのは、英語で話されるとタジタジになる、世の中英語ができた方が絶対いい、それに英語ができるとカッコいい、などなどいろいろな理由があるのですが。ただ年初に目標なるものを、なんとなく立ててはみるのですが、年末になるとどんな目標をたてののかも忘れてしまうくらい達成状況は悪いのが常でありました。

そこで、今年はここでこうやって公言することでやらなければいけないという状況を作り、なおかつ学生の皆さんとともに始めるということで4月からスタートとしようという計画も立てました。—ここで既に3ヶ月が経過してしまっていること自体甘いかもしれませんが。—



教務課経済学部系の職員です。

さて、経済学部生の皆さんには「全カリ英語」がありますね。これはほんとうに羨ましくなるくらい素晴らしい英語学習プログラムです。習熟度別にクラス分けがされ、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングと全ての英語のスキルが身に付くようなカリキュラムになっている、そして英語学習を手助けする英語学習サポートルームまであるのです。英語の力は、高校まで英語を学習し、その後18歳以降に継続して学習することで、さらに伸びるということを聞いたことがあります。高校まで英語が苦手だったという方もいるかと思いますが、獨協の「全カリ英語」はそういった方も英語ができるようになるプログラムです。獨協に入ったのですから、是非とも英語ができるようになって卒業してもらいたいです。英語が

できると必ずやいいことがあります。卒業してから「全カリ英語」をもっと活用しておけばよかった、なんて悔やんでも遅いですよ。そして皆さんには、私の目標達成のためのペースメーカーになってもらえたら、なんて虫のいいことは私は考えたりするのです…。



ところで、2013年4月からは、経済学部に新学科「国際環境経済学科」が誕生し、「経済学科」、「経営学科」も新しいカリキュラムでスタートします。私たち教務課スタッフもまた新たな気持ちで皆さんの学習サポートをしていくつもりです。「履修の仕方がわからない」、「カリキュラムがよく理解できない」、「成績の事で相談したい」など、困ったことがあればいつでも訪ねてきてください。そして、TOEIC®の結果を見て英語力が付いたと是非自慢しに来てください。それが、私の今年目標を達成させる原動力となりますので。



履修登録の必須アイテム ①履修の手引き ②授業時間割表 ③シラバス

教務課経済学部系の窓口は、東棟1階にあります。

# キャンパスマナーを守ろう!

快適なキャンパスを維持するために、学生も教職員も皆がルールを守ることが大切です。

自己中心的な行動や、集団心理による迷惑行為がないようにしたいものです。

マナーとは、同じ社会に生きる皆が気持ちよく過ごすために「お互いを気遣う」気持ちを「約束事」にしたものです。

大学は地域社会の一員として周辺の地域の方々と協調していかなければなりません。

獨協大学の学生として誇りを持ち、社会の構成員として責任ある行動を心がけましょう。

## 喫煙マナー

(※20歳未満の喫煙は法律で禁止されています。)

健康増進法には受動喫煙の防止条項があります。受動喫煙による身体への害を他者に及ぼさないために、公共機関や病院・銀行・学校などにおいては「禁煙」が求められています。獨協大学は、安全かつ快適な教育研究環境を目指し、「キャンパスの建物内全面禁煙および敷地内分煙」です。

喫煙場所は、喫煙ボックス内のみです。喫煙ボックス内以外で喫煙するマナー違反者には断固とした措置をとります。

※受動喫煙で問題とされる副流煙の害は、主流煙の約2倍から5倍です。タバコを吸わない人にとっては、煙が害だけでなくタバコの匂いもきわめて不快で、大変迷惑です。

## 授業中のマナー

- ・携帯電話の電源を切り、使用をやめましょう。
- ・ペットボトルなど授業に関係ない物を机の上に置くことはやめましょう。
- ・私語は慎みましょう。

## エレベーターの利用マナー

- ・車椅子の方や身体の不自由な方が直ぐに乗れるように出来るだけ階段を利用しましょう。

## 学生食堂でのマナー

- ・みんなが楽しく、気持ち良く食事が出来るように、座席の先取りやサークル仲間同士の座席の占有等はやめましょう。

・セルフサービスです。食べ終わった後の食器類は、<食器返却口>に必ず戻しましょう。

・食堂内はもちろん、食堂南側テラスも終日全面禁煙です。

## インターネット利用マナー

インターネットは非常に便利ですが、ブログや掲示板への軽率な書き込みにより、他人や大学を巻き込む事態になることもあり、利用に伴うトラブルも実際に起きています。法令を遵守することはもちろん、獨協大学生としての自覚を持って、モラルに欠けた行動をしないように心掛けましょう。

## 地域住民の方々からの苦情が特に多いもの

### ●駅から東門までの通学時

「学生が道路をふさぐように広がっている」、「東門前スクランブル交差点を信号無視して渡っている」、「歩きながらタバコを吸っている」、「タバコのポイ捨てをする」。これらに対して、市民より厳しい指摘が多く寄せられています。やめましょう。

### ●松原団地駅での行動

夕方から深夜にかけて集団(サークル単位)で、改札口付近や駅前で占拠している状態。駅や駅周辺は、獨協生だけのものではありません。マナーを守る行動をしてください。

### ●飲酒後の行動

松原団地駅周辺に限らず、団体で飲酒後に大声をあげて話したり、叫んだりといった行動についても、多くの苦情が寄せられています。「酔っているせいで気づかない」というのは言い訳になりません。常に周囲の迷惑にならない行動を心がけてください。

※20歳未満の人の飲酒は法律で禁止されています。20歳未満の人に飲ませることも法律で禁止されています。

## ■不正行為と処分

定期試験において不正行為(紛らわしい行為含む)を行った者は、学則第49条(懲戒)に基づき**厳重に処分(戒告・停学および退学)**され、当該学期の全科目の評価を「不可(F)」とするとともに掲示板に処分者氏名を公示します。

# 世界に羽ばたく第一歩は、国際交流センターから



国際交流センター（天野貞祐記念館1階）で行っている学生支援業務は、大きく分けて3種類あります。

## ①海外留学の相談とサポート

皆さんは、「留学」という言葉を聞いた時、どんなことを考えますか？「留学に興味はあるけど、何から準備を始めたらいいか、わからない」「留学できるほどの語学力がまだないし……」という人も多いのではないのでしょうか。しかし、「語学の獨協」に入学した皆さんは、少なからず外国語や海外への関心が高いことと思います。その漠然とした“留学への憧れ”を現実近づけるためのサポートを、国際交流センターは行っています。

本学の留学制度は、長期・短期の2種類があります。長期留学には、交換留学（協定校への1年間の留学）と、認定留学（個人で選んだ大学に1学期以上留学）の2種類があり、年間で合計約80名前後が留学しています。短期留学は夏休みと春休み中に約1カ月行われる語学研修で、昨年度は夏・春合計約250名（そのうち経済学部生は約40名）が参加しています。

まずは、4月の「海外留学ガイダンス」に、ぜひ出席してみてください。獨協大学の留学制度、留学に必要な条件等について、わかりやすく説明するとともに、長期留学、短期留学それぞれの経験者によるプレゼンテーションも行います。

このほか、国際交流センターの窓口では、各言語圏の専門スタッフが相談に応じるほか、言語圏別長期・短期留学募集説明会、TOEFL、IELTSといった語学試験の説明会、国際ボランティア説明会等も行っています。スケジュールは、獨協大学ニュースやHP等でお知らせします。

## ②外国人学生のサポート

獨協大学には、現在約100名の外国人学生が在籍しています。国際交流センターでは、在留資格更新や変更、アルバイト（資格外活動）をする際に必要な手続きのサポートや、アパートを借りる際に保証人が見つからない場合のサポート（留学生住宅総合補償制度）、獨協大学や外部団体の奨学金の紹介、申請を行っています。学生生活を送る上で困ったことがあったら、気軽に相談に来てください。

## ③国際交流の場の提供

日本人学生、外国人学生、そして海外協定校から半年または1年間本学に来ている外国人留学生の交流の場を設けることも、重要な仕事のひとつです。この、キャンパス内での国際交流をさらに充実させることが、2013年度の国際交流センターのテーマです。

これまでも、国際交流イベントとして、4月の外国人学生・外国人留学生歓迎パーティー、10月のバスツアー「キャンパス・アウトティング」（2012年は富士山五合目ハイキングとそば打ち体験）、学生サークル国際親善倶楽部との共催イベント「日本語で話そうパーティー」（年2回）など、年間を通じてさまざまなイベントを実施してきましたが、今年度は新たな試みとして「学生による国際交流イベント」を行います。これは、学内での国際交流を推進するため、国際交流センターのサポートのもと学生が企画、運営するイベントを公募したもので、今回14件の応募の中から選考の結果採択された2件を、2013年度に実施することになっています。

各種イベントについては、大学ニュース、HP、ポスター掲示等でお知らせしますので、ぜひ積極的に参加してください。また、2014年度の「学生による国際交流イベント」企画は10月に募集する予定です。皆さんからの画期的な企画をお待ちしています。

## Information

### 海外留学ガイダンス

4月4日（木）  
9:30~10:30 経済学部2~4年生 E-202  
11:30~12:00 経済学部1年生 E-101

### 外国人学生奨学金ガイダンス

4月4日（木）12:00~13:30 E-311

### 外国人学生・外国人留学生歓迎パーティー

4月20日（土）12:00~14:00  
中央棟南側・中庭  
日本人学生との交流が目的です。事前予約不要。

# 図書館の窓口サービス紹介

図書館には用途に応じた様々なカウンターがあります。入口に近いところにあるメインカウンター（1階）と3Fカウンターでは、資料の貸出・返却や、図書館の利用全般についての質問や相談に応じています。各フロアにあるレファレンスカウンターでは、資料についての専門的な相談などができます。また、2階にはPC関係の貸出や質問などに対応する教育研究支援センターのPC貸出・サポートデスクがあります。

それぞれのカウンターについて少し詳しく説明しましょう。

## 【メインカウンター：貸出・返却・各種利用申請】

メインカウンターでは、資料の貸出・返却のほか、人が入ることができない自動書庫の資料の受け取りや、研究個室の利用申請ができます。3Fカウンターでも資料の貸出・返却ができるほか、AV資料を視聴するAVブースや発話トレーニングブース、共同学習室等の利用申請ができます。



## 【レファレンスカウンター：資料・情報探しの相談窓口】

図書館の各フロア中央には、レファレンスカウンターが設けられています。レファレンスカウンターというのは、探している資料が見つからない、どのように探したらいいのか分からない、そんな時に相談できる場所です。

1階の総合レファレンスカウンターでは、一般的な資料相談のほか、他大学からの文献の取り寄せや紹介状の発行などを行っています。

2階のレファレンスカウンターでは、政治・経済・法律の

分野の資料相談を、3階のレファレンスカウンターでは、芸術、言語・語学、文学の分野の相談を受け付けています。

各階のサービス時間については、別に配布している図書館ガイドなどで確認してください。



## 【学習や就職活動のためのガイダンス】

また春や秋にレポート・論文の書き方、データベースなどのガイダンスを開催しています。学習に役立つもののほか、就職活動に役立つものもありますので、気になったガイダンスには1年生のうちから迷わず参加してください。お待ちしております。

図書館では皆さんからの声をもとに、より利用しやすい図書館、より過ごしやすい図書館を目指して日々改善に努めています。図書館のことでわからないことや困ったこと、希望などがあれば、遠慮なくカウンターにいるスタッフに声をかけてください。



# キャリアセンターの窓口から

キャリアセンター就職支援係 福田 康宏

経済学部学生の皆さんこんにちは。キャリアセンター就職支援係の福田康宏と申します。今回はこちらのページをお借りして、キャリアセンターの取組みをご紹介します。就職活動中の皆さん、そしてこれから将来について考え始める皆さんの、何かヒントになれば幸いです。

まず就職活動の準備をする上で、最も大切なのが「学生生活の充実」です。企業・団体が実施する就職試験は、学生たち一人一人が自分自身のプレゼンテーションをする場となります。ゼミや留学などの「学び」、サークル活動やアルバイトなど「課外活動」が充実して、初めて自分自身の中で優れていると思われる部分をPRできるのです。

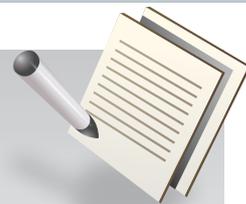
キャリアセンターのキャリア支援カリキュラムは、業界研究や自己分析から採用試験対策講座まで幅広いメニューを年間約50講座（約280コマ）取り揃えています。学年を問わず受講できる講座も用意されています。これらの講座を通じて、将来進むべき業界や自分の働き方、あるいは自分の働く力を見つけ出ししていくことが、「就職」につながります。

そして実際に就職活動を進めるにあたり、キャリアセンターでは「五感を駆使した就職活動」を推進しています。氾濫する様々なデジタル情報にとらわれず、自ら足を運び、見て、聞いて、肌で感じることで、今後の進路を決めていく過程ではとても大切であると伝えています。そのために、早い時期から卒業生や企業の採用担当者と接する機会を設け、生きた情報に触れることで、自らの中に「ひらめき」「発見」が芽生え、一人一人が能動的に取組んでいけるよう働きかけています。

キャリアセンターでは、いつでも皆さんの相談を受けています。普段訪れる学生の目的は、全般的な進路相談はもちろん、履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接、OB・OG訪問の卒業生情報提供など、とても幅広いです。今まで様々なフィールドを歩いてきた、経験豊富なスタッフが対応します。皆さんが、社会人として大切な最初の一歩を踏み出すためのお手伝いを、スタッフ一丸となってサポートしていきます。



# マイクロソフト本社で 役員を前にプレゼン



経営学科教授 岡部 康弘

12月20日、品川にあるマイクロソフト本社で、「マイクロソフトのiPad追撃戦略」というテーマで、マイクロソフトの執行役員を含む経営幹部社員4名を前に、岡部ゼミ3年生の4グループがプレゼンを行った。プレゼンは日本語で行い、本学の学生2名（英語学科の中村君と国際教養学部 of 渋谷さん）がプレゼン内容と質疑応答を通訳した。以下は各グループのプレゼン内容と質問である。

私達は主に行動経済学を用いて提案した。Windows 8を搭載したタブレットは優れているため、一度消費者の選択肢に入れば、購入者が増えると考え、マインドシェアの獲得を目標とした。そこでターゲットをノートPCからタブレットへの乗り換えユーザー（上位）とライトユーザー（下位）に絞り、各戦略で売り出そうと考えた。タブレット市場を上位、下位と分化させることで激化させ、将来的には他メーカーからのライセンスと自社製ハードを利益の二本柱としていくのが、私達の戦略である。マイクロソフトからの質問はOfficeというマイクロソフト最大の強みを削る理由と代わりとなる強みは何か。マイクロソフトがハードウェア市場に参入する際の他メーカーへの配慮はどうか等があった。（文責：石山裕二）

私達はマイクロソフトをより身近で顔が見える企業へ変革するために、Microsoft cafeを提案した。マイクロソフトの持つ革新的な技術をより多くの人々に感じてほしいと願ったからである。cafeでは、顧客がマイクロソフトの商品やサービスのアイデアを自由に投稿できるシステムMicrosoft ideaをWindows 8上に導入し、顧客に寄り添ったサービスを展開することで、身近な企業へとイメージ転換を図ろうと考えた。質疑応答では、自社でcafeを出店する意味は何か。ターゲット層・出店予定数や具体的な場所はどうか等があった。（文責：高原優子）

全世代の“生活の一部”となるタブレットをコンセプトに、私たちは「Coloris（クロリ）」という新しい情報サービスを提案した。このサービスでは、利用者の趣味・嗜好に合った情報を提供する“情報配信機能”とマイクロソフトの強みであるKinectの技術を活用した、より高性能な“画像認識機能”の2点が可能になる。このサービスを最大限に活用するために、タブレットだけでなく画面を折り畳むことでスマートフォンとしての役割も持つ、1台2役として売り出す。それにより、新たな価値を生み出し、消費者に新たな選択肢をもたらそうと考えた。マイクロソフト側から、高齢者へのアプローチ方法はどうか。このサービスはマイクロソフトでなくてもいいのではないかという質問をいただいた。（文責：酒井友香里）

私たちはWindows 8 タブレットを最も必要とするであろうビジネスマンを主要ターゲットに定め、販売戦略を立てた。Windows 8 タブレットを知ってもらう認知段階のPRとしては、主要駅の広告ジャックとWindows ショップのオープン、その後は欲しいという欲求につなげるためのWindows タブレットレンタルシステムを提案した。また、これまでは入手し得なかった情報を顧客管理に活かし、長期的にお客様との関係を築き、より顔が見える企業へと変革していくことが大切なのではないか、という想いを伝えた。マイクロソフト側から、BtoBへの戦略はどうするのか。実際にこのようなシステムがあれば使いたいかという質問があった。（文責：倉持有里）



このように質問や疑問が提示されたということは、もちろんまだまだ不十分なプランである。しかし、今回はインナー大会（プレゼンの全国大会）で決勝まで勝ち残ったチームがあったため実質の準備期間が1カ月余りと短く、さらに分析にはITの専門分野の知識が必要のため、ゼミ生はかなり苦労したと思う。事実プレゼンの1週間前からほとんど寝てないと言っていた。

マイクロソフト本社から品川駅までの帰り道ゼミ生達から「あ〜ゼミが終わってしまった。」「これから何をすればいいの。」と嘆いている言葉が出たが、就活をやれと言いたい。仲間たちと過ごした充実した時間の思い出を胸に抱いて。

最後にマイクロソフトのカンさん、新保さん、高垣さん、松田さんにお忙しい中ご協力を頂いたことに感謝を申し上げる。特に松田さんには様々な御配慮をいただき厚くお礼を申し上げたい。

# 2012年度 経済学部総合講座

## ■ 春学期

回	講義(水)	講演者	講演題目
1	4月11日	ガイダンス	
2	4月18日	小林 靖弘氏 アクセルマーク株式会社 元代表取締役社長	誰も教えてくれない社会人になった時の秘訣 (今から準備することとは?)
3	4月25日	宮岡 宏氏 国立極地研究所 北極観測センター副センター長	南極・北極観測から探る地球環境と宇宙 ー地球・宇宙観測のフロンティアー
4	5月 9日	渡辺 修一氏 渡辺耳鼻咽喉科・アレルギー科クリニック院長	熱海の活性化のこれまでと今後
5	5月16日	小林 一光氏 株式会社アイ・タッグ代表取締役 営業マン再生コーチ	『営業』って本当はどんな仕事なの?
6	5月23日	幸 彰氏 一般社団法人 日本労働者信用基金協会 参事管理1部長	個人信用保証 (住宅ローン等の黒子役)
7	5月30日	築田 優氏 和歌山大学経済学部専任講師	社会人大学院生から大学専任教員への道
8	6月 6日	木原 隆司氏 アジア開発銀行研究所総務部長	効果的な開発援助?
9	6月13日	澤井 每里子氏 琉球古典音楽奏者	沖縄の歴史と音楽
10	6月20日	山崎 元氏 獨協大学経済学部特任教授	12回の転職経験から語る キャリアプランニングの考え方
11	6月27日	小澤 邦寿氏 群馬県衛生環境研究所長	人は世界をどう見ているか? ーヒトの視覚の特性から外界の認知について考察するー
12	7月 4日	矢口 正樹氏 東京都高等学校文化連盟書道部門理事・淵江高等学校教諭	社会科教員の日々と書道部門理事としての活動
13	7月11日	賀茂 美則氏 ルイジアナ州立大学社会学部准教授・慶応義塾大学講師	日本人とは、国際人とは: ハリケーンと震災から学んだこと
14	7月18日	筋野 隆志氏 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント特別顧問 高崎市立高崎経済大学非常勤講師	震災は生活者をどう変えたのか ーソーシャルなライフスタイルの予感ー

## ■ 秋学期

回	講義(水)	講演者	講演題目
1	9月26日	ガイダンス	
2	10月 3日	山脇 岳志氏 朝日新聞GLOBE編集長	現代社会を生き抜くために 社会人としての「突破力」とは
3	10月10日	中村 昌義氏 中村荒井パートナーズ株式会社 パートナー	M & Aバンカーとしての心得
4	10月17日	小正 芳嗣氏 小正醸造株式会社専務取締役	酒類業界の現状とこれからの展望 ー4代目焼酎蔵元が考える世界ー
5	10月24日	仁科 伸子氏 合同会社 CDC代表	もう一つのアメリカと非営利組織
6	10月31日	勝山 正昭氏 ガイ カーベンター株式会社マネージング・ディレクター	「クンクム体験」してみませんか? ー北タイの田舎町との草の根交流ー
7	11月 7日	林 万平氏 一般財団法人アジア太平洋研究所 研究員	自然災害被害による経済被害
8	11月14日	井手 英策氏 慶応義塾大学経済学部 准教授	小さな政府の大きな財政赤字 ー増税可能な社会について考えるー
9	11月21日	濱 健夫氏 筑波大学生命環境科学研究科教授生物学類長	地球環境の変化と海洋の微生物
10	11月28日	和泉 昭子氏 生活経済ジャーナリスト	どうなる年金?どうなる医療?社会保障の 動向とこれからのライフキャリアプラン
11	12月 5日	桜井 靖久氏 大阪市立大学商学部 特任講師	グローバル化時代の地域経済 ー大都市圏域の雇用ー
12	12月12日	松本 すみ子氏 有限会社アリア 代表取締役	少子高齢化時代の生涯現役のあり方
13	12月19日	結城 康博氏 淑徳大学准教授	孤独死問題を通して無縁社会を考える
14	1月 9日	飯島 一夫氏 日本証券業協会 金融・証券教育支援本部 審議役	自分の未来はじぶんでつくる ー今こそ若い人にも金融リテラシーをー
15	1月16日	碓井 健寛氏 創価大学経済学部 准教授	家庭ごみの有料化によってごみは減るのか?

## 経済学部教員の 2012年度の研究業績

経済学部 に在籍している各教員の「業績一覧」および「教員紹介ページ」が大学のホームページに掲載されています。ここでは、一部の教員になりますが、2012年度の研究業績(原則各教員4つまで)を掲載しています。

### 経済学科



#### 岡田 圭子

##### 2012年度の研究業績

- ② “Adaptation of the CEFR to remedial English education in Japan.” (共著) Language Learning in Higher Education 2-1, 2012. Berlin: De Gruyter Mouton.
- ④ 「自律学習支援を目的とする、統一的基準に基づいた入学前英語教育用教材について」(共同発表) 日本リメディアル教育学会第8回全国大会、於：立命館大学、2012年9月
- ④ (講演) 「これからの大学共通外国語教育-獨協大学の共通英語教育を例として」於：久留米大学比較文化研究所、2013年2月

#### 倉橋 透

##### 2012年度の研究業績

- ② 「借家の空き家率と家賃上昇率との関係についての一考察」、『URBAN STUDY』Vol.55、財団法人 民間都市開発機構都市研究センター、2012年12月号、23-33頁
- ④ “The Definition of Metropolitan Areas in Japan and Analyses relating to them”, Standing Committee on Rural and Urban Statistics, International Association for Official Statistics 2012年大会、ウクライナ・キエフ、2012年9月12日
- ⑤ 草加市建築審査会委員
- ⑤ 住宅金融支援機構 「独立行政法人住宅金融支援機構の在り方に関する調査会」の報告書に関する検討委員会委員

#### 黒木 亮

##### 2012年度の研究業績

- ② 「フランク・ナイト」、『週刊 エコノミスト』、2012年4月24日号
- ③ 「フランク・ナイト 社会哲学を語る」(訳書)、ミネルヴァ書房、2012年12月

#### 斉藤 美彦

##### 2012年度の研究業績

- ② 「国債累積と金融システム・中央銀行」『経済研究所年報』(成城大学経済研究所) 第25号、2012年4月
- ③ (書評) 月刊『しんくみ』(全国信用組合中央協会) 年間12本執筆
- ④ 学会討論者(報告者 高橋正彦氏「預金保険制度の課題と展望」) 日本金融学会2012年度春季大会、於：立正大学、2012年5月19日
- ④ 「量的緩和政策の日英比較」日本金融学会・証券経済学会・信用理論研究会合同北海道部会、於：北海学園大学、2013年3月30日

#### 須藤 時仁

##### 2012年度の研究業績

- ② 「金融不安定性分析のための時系列モデル：理論分析」、『証券経済研究』第80号、1-21頁、2012年12月
- ② 「デフレのジレンマ：日本の長期金利はなぜ低いのか?」、『獨協経済』92号、2013年3月

#### 高畑 純一郎

##### 2012年度の研究業績

- ③ “Is GBS Still a Preferable Aid Modality?” (共著) JICA-RI Working Paper No. 50, 2013年
- ③ “General Budget Support in Tanzania, Late Disbursement and Service Delivery,” (共著) JICA-RI Working Paper No. 48, 2012年
- ③ “Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting,” (共著) CIS Discussion paper series 533, Center for Intergenerational Studies, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University, 2012年

#### 高安 健一

##### 2012年度の研究業績

- ① 『シンガポールを知るための65章』(共著)、明石書店、2013年
- ① 『アジア経済研究所業績評価報告書』(共著)、2012年5月
- ④ (講演) 「新興国経済展望~BRICsの成長持続性を問う~」、京葉銀行文化プラザ主催、2012年5月19日

## 中野隆史

### 2012年度の研究業績

- ④「学生のメンタルヘルス」(研究会報告・シンポジスト)、シンポジウム「大学における学生・教職員の健康管理」、第50回全国大学保健管理協会甲信越地方部会研究集会、東京、2012年8月
- ④「保健センターの健康管理サービスに対する学生の認知と利用及びニーズに関する調査(12) —テキストマイニングを用いたスクリーニング面接の探索的検討—」(研究会報告・共同)、第50回全国大学保健管理研究集会、神戸、2012年10月
- ④「保健センターの健康管理サービスに対する学生の認知と利用及びニーズに関する調査(13) —身体的問題を抱えて精神衛生相談を利用する学生—」(研究会報告・共同)、第50回全国大学保健管理研究集会、神戸、2012年10月
- ④「保健センターの健康管理サービスに対する学生の認知と利用及びニーズに関する調査(14) —4件法メンタルヘルスチェックリストの検討—」(研究会報告・共同) 第50回全国大学保健管理研究集会、神戸、2012年10月

## 奈倉文二

### 2012年度の研究業績

- ①『日本軍事関連産業史—海軍と英国兵器会社』(単著) 日本経済評論社、2013年1月

## 野村容康

### 2012年度の研究業績

- ①「なぜ日本は増税できなかったのか—戦後租税政策の形成過程—」井手英策編『危機と再建の比較財政史』ミネルヴァ書房、2013年3月
- ①「アメリカの貯蓄優遇税制と所得分配—州・地方債利子非課税制度を中心として—」証券税制研究会編『証券税制改革の論点』公益財団法人日本証券経済研究所、2012年9月
- ②「最近のアメリカにおける退職貯蓄政策の展開—「自動化IRA」構想の可能性—」、『証券経済研究』第80号、2012年12月
- ④“A Comparative History of U.S. and Japanese Resistance to the Value-Added Tax” (共同報告)、at the annual meeting of The Law and Society Association, Hilton Hawaiian Village Resort, Honolulu, HI, June 08, 2012

## 浜本光紹

### 2012年度の研究業績

- ②「温室効果ガス排出削減プロジェクトを通じた国際的技術移転—クリーン開発メカニズムから得られる知見を中心に—」『環

境共生研究』第6号、2013年3月

- ④「家計における省エネルギー投資と割引率」環境経済・政策学会、於：東北大学、2012年9月16日

## 藤山英樹

### 2012年度の研究業績

- ②「ボナッチッチの2つの中心性概念について」『情報学研究』Vol.2、2013年2月
- ③(書評)『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミクス』中野勉、『理論と方法』Vol.27, No.2、2012年9月、315-318頁
- ④“Information Structure and Coordination in Organization”, Seminar in Kyung Hee University, Korea, September 20
- ⑤さいたま地方裁判所委員会委員

## 本田浩邦

### 2012年度の研究業績

- ②「戦後アメリカにおける普遍的所得保障—「負の所得税」不成立の経緯」『アメリカ経済史研究』(アメリカ経済史学会) 第11号、2013年3月
- ②「社会保障制度—年金・医療・貧困対策プログラム」中本悟・宮崎礼二編『現代アメリカ経済研究入門』日本評論社、2013年3月
- ④「アメリカにおける普遍的所得保障をめぐる議論—1960年代を中心に」アメリカ経済思想史研究会全国大会、於：日本大学経済学部、2012年11月17日

## 森永卓郎

### 2012年度の研究業績

- ①『庶民は知らないデフレの真実』(単著) 角川SSC新書
- ①『大貧民』(単著) アーク出版

## 経営学科



### 飯島 優雅

#### 2012年度の研究業績

- ①「グローバル時代の大学共通英語カリキュラムの一考察 —「外国語教育」から「世界共通語のリテラシー教育」へ—」(単著)、星野昭吉(編著)『グローバル社会の形成とグローバル・ガバナンスの展開』(第13章 221-238頁)、テイハン、2012年8月
- ①“Establishing an English learning advising service: A case of the ‘English Learning Support Room’ at Dokkyo University.”(共著)、In C. Ludwig & J. Mynard (Eds.), *Autonomy in language learning: Advising in action* (pp. 39-58). Canterbury, UK: IATEFL, 2012年4月
- ②“Insight into L2 Reading from Concept-Oriented Reading Instruction (CORI).”(共著)、Proceedings of the JACET 51st International Convention, 2012年9月
- ④“Designing an EGAP Can-do List for Non-English Majors at a Japanese University.”(単独)、The 10th AsiaTEFL International Conference, New Delhi, India, 2012年10月

### 大床 太郎

#### 2012年度の研究業績

- ②“Public Preferences for Forest Ecosystem Management in Japan with Emphasis on Species Diversity”(共著)、*Environmental Economics and Policy Studies* 14(2), pp.147-169, April 2012
- ②“Public Preferences for Crime Risk Reduction in Japan: Evidences from Stated Preference Data”(共著)、*Far Eastern Studies* 11, pp. 39-64, March 2012
- ③“Residential preferences for stable electricity supply and a reduction in air pollution risk: A benefit transfer study using choice modeling in China”(共著)、IDEC DP2 Series, No.2-12, June 2012

### 黒川 文子

#### 2012年度の研究業績

- ③「金融危機後のフランス自動車メーカーの経営戦略」、日仏経営学会第59回全国大会、於：作新学院大学、2012年5月12日
- ⑤日仏経営学会副会長
- ⑤日本経営学会誌編集委員

### 小林 哲也

#### 2012年度の研究業績

- ②「『ハイテク』ビジネスモデルの変貌」『情報学研究』(獨協大学情報学研究所)第2号、2013年2月
- ②「日本企業のイノベーション」『埼玉新聞』2012年6月5日
- ⑤独立行政法人航海訓練所内部評価委員

### 高松 和幸

#### 2012年度の研究業績

- ①『マッチングギフトとコミュニティの形成』創成社、2012
- ④「地域コミュニティの活性化における高齢者の役割と現状からみた課題について」地域活性学会第4回研究大会論文集、pp163-166、2012.
- ⑤文科省採択事業「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」評価委員.
- ⑤「大学生による共助の取組発信」活動並びに「中山間地域ふるさと支援隊」活動

### 立田 ルミ

#### 2012年度の研究業績

- ①『日経パソコン Edu』連携ワークブック』(共著)、日経BP社、2013年3月
- ②「大学生の情報環境と基礎情報能力調査—2003年から2012年まで—」、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series (情報処理学会) Vol. 2012、No.4、29-34頁、2012年8月
- ②「大学におけるICT支援—獨協大学の取り組みから—」、『情報処理学会研究報告』(情報処理学会) Vol.2012-CE-115、No.1、1-8頁、2012年7月
- ②「教育用システムの利用比較研究—教員側と学生側—」、『情報学研究』第2号、55-64頁、2013年2月

### 樋田 勉

#### 2012年度の研究業績

- 学会・研究会報告
- ④「社会生活基本調査による買い物行動の変化の分析」、2012年度統計関連学会連合大会、於：北海道大学、2012年9月
- ⑤総務省 物価指数研究会 委員
- ⑤総務省 経済指標専門会議 委員
- ⑤厚生労働省 社会保障審議会 統計分科会員委員

## 堀江 郁美

### 2012年度の研究業績

- ② 「ICTを活用した授業支援に関する実践報告」、『情報学研究』（獨協大学情報学研究所）創刊号、91-100頁
- ② 「適応型単語リストを用いた自律学習支援システムの構築」（共著）、『情報処理学会研究報告. コンピュータと教育研究会報告』（情報処理学会）2012-CE-115、No.6、1-6
- ② 「Windows環境下における出席管理システムの構築と評価」（共著）、『情報処理学会研究報告. コンピュータと教育研究会報告』（情報処理学会）2012-CE-115、No.4、1-7頁
- ⑤ Information Technology Based Higher Education and Training: ITHET, International Program Committee

## 湯田 雅夫

### 2012年度の研究業績

- ② 「現代企業におけるCSR経営の理想と現実」第12回日本・モンゴル国際シンポジウム、統一論題「環境と経済成長との調和と経営行動」、『経営行動研究学会年報』、2012年8月
- ④ 「現代企業におけるCSR経営の理想と現実」、第12回日本・モンゴル国際シンポジウム（主催：経営行動研究学会）、於：山梨学院大学、2012年8月7日
- ④ 「CSR実践の現状と将来」（スタディグループCSR中間報告、研究代表として）、日本社会関連会計学会第25回全国大会、於：大阪市立大学、2012年11月10日

## Network 経済 2013 Spring Vol.24

年2回発行予定 ©獨協大学経済学部・獨協大学経済学会

編集・発行 獨協大学経済学部、経済学会Network経済編集委員会  
〒340-0042 埼玉県草加市学園町1丁目1

編集部 TEL 048(946)1929 FAX 048(943)3153  
E-mail deaneco@stf.dokkyo.ac.jp

企画デザイン・印刷 望月印刷株式会社

※本誌の内容を許可なく転載・放送することを禁じます。 2013年3月21日

Published by Faculty of Economics, Dokkyo University and Society of Dokkyo Economics  
Supported by Mochizuki Printing Co.,Ltd.